

城ヶ岳



令和3年 10月8日
第14号
佐世保市立宇久中学校
校長 萩山 栄二

●学校教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒」

●教育理念 「磨く」「輝く」「光る」「子どもは『希望』である」

< 前期が終わりました >

■令和3年度の前期が10月8日（金）をもって終わりました。4月に着任して早いもので6か月が過ぎました。この前期は様々な行事がありましたが、常に新型コロナウイルス感染症のことがつきまといっていました。三密を避ける、マスクを着用する、手指の消毒をするなど、基本的な対策を講じ徹底してできる限りのことを実施してきました。まさに「With コロナ」です。

■生徒たちは体も心も成長の途上です。この中学生の時期は自我が急速に発達します。いわゆる反抗期は発達心理学における発達課題の一つとされています。中学生の時期のこの反抗期を乗り越えることはとても大切なことなのです。大人になるために通過しなければならないことです。そのような中ですが、生徒たちの一生懸命に活動する姿は、県内でも有数のものだと感じています。目指す生徒像に「素直で心豊かな生徒」とあります。まさにこれを体現しています。

■青年期の葛藤を乗り越えていく中で、学校行事は生徒が切磋琢磨しながら成長することができる重要な活動です。教科の学習では学ぶことができないことがたくさんあります。行事の成功から学ぶこともあれば、逆に失敗から学ぶこともあります。それが生徒にとっては重要なことだと考えます。前期の行事を通じて生徒たちは成長を重ねています。先輩から後輩へ受け継がれているものもあります。もっともっといいものを目指して磨きあい、輝き光ることができようかと願っています。

■通知表をお渡ししています。よく目を通していただきますようよろしくお願いいたします。前期の終わりという大切な節目ですの

で、生徒の皆さんは自分を見つめなおして後期に向けた振り返りをお願いします。



< 佐世保市中学校駅伝競走 >

■10月5日（火）に開催された大会は、例年のない暑さの中実施されました。6月の市中体が終了してからこの大会が終わるまでの長丁場の練習でしたが、途中、新型コロナウイルス感染症により長崎県独自の緊急事態宣言の発令、まん延防止措置の対象となるなど練習ができない時期もありました。9月半ばに再スタートした練習は、生徒たちも練習に真摯に取り組み、タイムも各自伸びつつありました。大会前日に生徒たちには、「周囲に惑わされず、自分のペースで、自己ベストを目指してほしい」と話をしました。多くの生徒が自己ベスト更新あるいは自己ベストを出すなど、頑張っており、走りとおすことができました。男女ともアンカーは会場全員からの拍手を受け、ゴールすることができました。その姿を見て本当にうれしさを感じました。多くの方々のサポートによって開催することが駅伝競走大会を通して、一回り成長してくれたのではないかと思います。保護者の皆様のご支援・ご協力にここから感謝申し上げます。

< 体育大会代替行事 >

■9月26日実施予定だった中高合同体育大会が実施できませんでしたので、代替行事を10月7日（木）の午後から実施しました。「宇久中学校 スポーツフェスティバル in エビスが丘」と称して、3年生に企画をしてもらい、実現しました。学校開放日も兼ねていましたが、お忙しい中にもかかわらず、保護者の皆様の参観をいただくことができました。ありがとうございました。



■生徒だけでなく、中学校の職員も参加しての行事となりました。前半は体育大会の種目、後半はソフトボールを行いました。前半部は、生徒・職員が3チームに分かれて競いました。練習をしなくてもできるよう

に工夫されていました。後半部のソフトボールは、グローブをはめるのに慣れない生徒もいる中、フラインプレーや珍プレーが見られて、全員で楽しく試合をすることができました。

< 図書の寄贈がありました >

■株式会社エシナ様から、SDGsに関する図書を寄贈していただきました。先日そのお礼として、生徒の代表からお礼状をお送りしました。

生徒の皆さんが読んでくれることを期待しています。



< 市中体駅伝大会決意集会 >



< 市中体駅伝大会出発式 >



< 市中体駅伝大会当日 >



< 体育大会代替行事 >

